



New Faculty Member

共に学ぶ。新任教員の紹介



生産科学科 植物遺伝育種学

高木 宏樹 助教

ゲノム解析技術を利用した育種の効率化

近年、次世代シーケンサーという機械が開発され、様々な生物種において全ゲノム情報を利用することが可能になりました。私の研究室では、次世代シーケンサーによる全ゲノム解析技術を用いて育種・栽培上重要な遺伝子を見つけることを行っています。有用な遺伝子が同定された場合は、DNAマーカーを設計して、個体選抜に利用することで育種の効率化に貢献したいと考えています。

出身地:富山県 **趣味:**山に植物を見に行くこと
尊敬する人物:ノーマン・ボーローグ、稲塚 権次郎
最近ハマっていること:ぶらぶら街を歩くこと
オススメ書籍:栽培植物と農耕の起源/中尾 佐助(著)
(岩波新書 青版 G-103)新書 - 1966/1/25

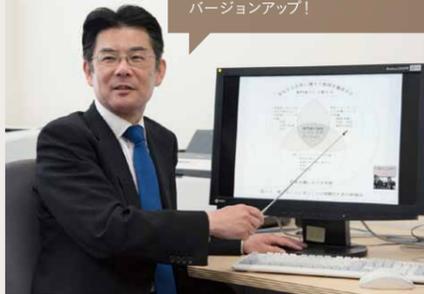


Message for Students

熱い気持ちで研究できるテーマを見つけてください。

Message for Students

学び合う仲間を見つけ、助け合い、切磋琢磨することで、自分自身をバージョンアップ!



教育と発達心理学

子どもや大人が感情を表出することや制御すること、職業や子育てを通じて得られる自己成長感、大学生のジェネリックスキルの育成など、子どもや大人が発達することや学ぶプロセスとその支援について、教育心理学・発達心理学の観点から研究しています。私たちが成長するためには、他者と関わり、自ら行動すること、そして、自身の行動を適切に振り返ることが大切であると実感しています。

出身地:大阪府 **趣味:**旅行
尊敬する人物:これまで出会った多くの先生方
最近ハマっていること:金沢近郊のドライブ、飛行機や電車の写真を撮ること
オススメ書籍:その幸運は偶然ではないんです!
J.D.クランボルト、A.S.レヴィン(著)/花田光世・大木紀子・宮地夕紀子(訳)
(ダイヤモンド社)

教養教育センター 教育心理学研究室

澤田 忠幸 教授



生物資源工学研究所(環境科学科所属) 環境生物工学研究室

馬場 保徳 助教

微生物によるバイオエネルギー生産と放射性汚染物の除染

微生物の力を利用して、廃棄物からメタンガス(都市ガスの主成分)を生産する研究に取り組んでいます。とくに、きのこの仲間やウシの胃袋の微生物を利用すると、難分解性のリグノセルロース系廃棄物(木材、農作物残さ、古紙、雑草など植物由来のもの)からのエネルギー生産が可能となり、注目しています。微生物による放射性汚染物の除染にも取り組んでいます。

出身地:岐阜県 **趣味:**天然温泉めぐり
尊敬する人物:これまで所属した研究室の先生方
最近ハマっていること:自宅の水道水が美味しく、ごくごく飲んでいます。
(今まで11回引越しましたが、石川の水はとくに美味しいです)
オススメ書籍:微生物生態学 ―ゲノム解析からエコシステムまで―
(京大学術出版会)



Message for Students

バイオエネルギーや除染研究に興味があれば、是非研究室へ遊びに来て下さい。

Campus Schedule	12月 December	1月 January	2月 February	3月 March	4月 April	5月 May
キャンパススケジュール	・冬季休業	・集中授業(スキー)	・後期試験 ・春季休業	・卒業式・学位授与式	・入学式 ・前期授業開始	・田植え実習 ・開学記念日(29日)



石川県立大学法人
石川県立大学
Ishikawa Prefectural University

最新情報は
ホームページから



石川県立大学広報委員会
〒921-8836 石川県野々市市末松1丁目308番地
Tel 076-227-7220 Fax 076-227-7410
E-mail jim@ishikawa-pu.ac.jp
http://www.ishikawa-pu.ac.jp/

今後のよりよい広報誌づくりのため
皆様のご意見をお聞かせください。

アンケートにお答えいただいた
皆様の中から
抽選で「はざ掛け米」1.5kg(1袋)を
5名様にプレゼントいたします。

※アンケートは石川県立大学Webサイトにあるフォームからご回答ください。
締切:2017年1月20日(金) ※当選は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

石川県立大学
(環境生物工学研究室)産!!



昔ながらの稲架(はざ)掛けをし、
天日乾燥させたお米です。

イカリモンハンミョウの保全

背中にイカリ(碇)に似た模様があることからその名がついたイカリモンハンミョウは、本州では石川県の一部にのみ生息しています。現在、イカリモンハンミョウの個体数は年々減少し、環境省の絶滅危惧種Ⅰ類に指定されています。イカリモンハンミョウの減少要因として、海岸浸食による砂浜海岸の縮小が指摘されていますが、他にも仮説があり本当の原因はよく分かっていません。そのため私たちは、イカリモンハンミョウの生態を調査し、時には砂浜に穴を掘って砂の物理性なども調べて、どの様な保全策を取るべきかを探っています。

地域活性化に向けて

イカリモンハンミョウが生息している美しい砂浜海岸には、フジノハナガイ、スナガニといった様々な面白い動物が住んでいます。また、ハマナス、ハマヒルガオ、マンテマといった色々な海浜植物も生息しており、これらの植生分布をドローンなども駆使しながら調べています。そして、これらの調査結果や新たに発見した地域資源を住民の方々に報告し、また、動物・植物のポケット図鑑なども作成して、地元の方が見落としていた地域のすばらしさを伝えていく活動も行っています。そうすることで、地元の方々にもっと地元を好きになってもらい、より活気あふれる地域になっていくことを願っています。

きらり輝く人 能登・里海プロジェクト

左から
水田 陽斗さん
若井 亜季さん
橋爪 賢司さん



INDEX

きらり輝く人	1
Special Feature トビタテ!留学 JAPAN	2
IPU Close Up IPU Report	4
SxT TALK!	5
CAMPUS LIFE	6
Community Contact Club Activities	7
New Faculty Member Campus Schedule	8

学生の海外留学を促進する

トビタテ! 留学JAPAN 日本代表プログラム

文部科学省と民間企業が協働で進めている「トビタテ! 留学JAPAN 日本代表プログラム」は、2020年までに大学生の海外留学者数を12万人に倍増することを目標とした留学促進キャンペーン。その第4期生として石川県立大学からカナダのセント・メアリーズ大学に留学した青山真也さんに、現地での研究活動や体験から得た学びとこれからの目標についてお話を聞きました。



屋上緑化の物理計測システムセンサーを持ってカナダの大学に留学

新村 青山くんは、なぜ「トビタテ! 留学JAPAN」に応募したのですか？

青山 留学を通じて、海外の研究を学びたいと思ったからです。学部4年生の時に研究の面白さを知りました。その後、本学を訪れたセント・メアリーズ大学のジェレミー教授と出会って、屋上緑化についての研究の可能性を知りました。それで、留学によって自分が得た知識や技術を社会に還元していけたらと思ったのが理由です。

新村 今回の留学計画を説明してくれますか？

青山 トビタテ生の留学計画は研究に限らず色々ですが、実践的であるということが求められています。僕は院生なので研究中心の留学計画になりました。研究の目的は、

「断熱性・保水性に優れた屋上緑化で建物の省エネ化に役立てること」です。現在、地球温暖化によってさまざまな所で省エネ化が求められています。石川県も北陸新幹線開業によりさらに都市化が進み、ヒートアイランドや都市型洪水の可能性が心配されていますので、重要な研究テーマだと考えこの留学計画を立てました。

百瀬 ただ青山くんの場合は、海外の研究を学んで来るだけの留学ではありませんでした。ジェレミー教授が本学訪問中のときに、青山くんは、土の中の熱移動や水移動を捉えるセンサーをつくっていて、ジェレミー教授がこのセンサーの有用性を理解してくれたからこそ、この留学につながったということもあるのではないのでしょうか。

青山 はい、向こうの研究を学んで日本に役立つとともに、僕がこれまで研究してきた

ことを留学先でも活用し、そこで得られたデータを向こうのみなさんと分析して、一緒に屋上緑化の研究を発展させることができましたと思います。

百瀬 共同研究ですね。ジェレミー教授は、自生植物種の組み合わせでいろいろな屋上緑化をつくって植物生態学の視点で研究されていますが、そこに青山くんのセンサーを設置すれば、屋上緑化の断熱性や保水性を数値化して評価できるようになります。青山くんの留学は、ジェレミー教授の研究にとってもメリットのあることだったと思います。

グローバル化に対応するために海外で身に付けたい力とは？

新村 トビタテの審査はどういうものでしたか？

青山 まず事前に書類審査があり、それを通過

地域課題をグローバルに展開し、石川の未来を変えていく！

すると企業の面接がありました。僕は石川の地域人材コースで応募したので、特に石川県に貢献できる留学計画かどうかという点でも審査されました。

新村 合格が決まってから具体的にどんな準備をしましたか？

青山 トビタテは自分で留学計画を立てて、さまざまな準備、手配もすべて自分でしなければなりません。航空券の手配や現地での暮らしの準備など、いろいろです。それから留学の受け入れに関して向こうの大学とはメールでやりとりをしました。

百瀬 なぜ、日本政府は民間企業とタッグを組んで、ここまで力を入れて若者を海外に送り出そうとしているのだろうか？

青山 海外に比べて日本のグローバル化は遅れていて、日本の企業もそれに危機を感じています。企業は、世界のグローバル化に対応できる人を求めているので、学生のうちから海外に行かせて、その経験を将来企業で活かしてもらおうと次々とプロジェクトに投資しています。

百瀬 グローバル化に対応できる人材とは、具体的にどんな人だと思ふ？

青山 世界情勢に通じて、世界の変動についていける人。

新村 でも今はインターネットもあるし、日本にいてもリアルタイムに情報が得られる。そ

れでも、現地に行かないと学べなかったこととは？

青山 そうですね。留学では、ディスカッションやディベートを集中的にやりましたが、全然ついていけなかったんです。それは、単に自分の英語力が足りないだけでなく、自分の意見を主張する力がまだまだ足りなかったんだと。そういう刺激は海外に行かないとわからなかったことでした。

留学で得た経験と学びはこれから生きる糧になる

青山 留学では、自分の意見を述べる発信力が足りないことを自覚しましたが、将来やりたいことも見え、屋上緑化についてさらに研究して社会に貢献したいと強く思うようになりました。それから、研究とは関係ないのですが、僕が滞在していたカナダのハリファクスは多様な人種が混在する国際社会で、やさしい人が多いことが印象的でした。そういったカナダの良いところを学び、自分も社会貢献をしていきたいと思いました。

百瀬 多様な価値観で育ってきた人々が協調しながら一つの社会をつくっていくには、自分の価値観を相手に押しつけるのではなく、認め合うことが必要。青山君は、ハリファクスで様々な人種がfusionする社会を見てきたわけだね。日本のグローバル

化が進めば、価値観も多様化していく。青山君は自己主張することが大事と言ったけれど、日本には「控えめ」「謙遜」を美德



とする文化もある。それは協調という点では、良い面でもあるよね。

青山 もちろん、そういう日本の良さもあります。ただ、人としてのやさしさは学ぶべきところがあるなと。

新村 最後に、これから留学をめざす後輩たちへのメッセージを。

青山 大学に在るだけでは、世界の今も大学の外のことも知ることができない。それで社会に出た時に大きなギャップを感じてしまうこともあるはず。留学を通して世界の今を知ると自分の立ち位置を確認することができ、そこで得た経験と学びはこれからの人生の糧になります。「トビタテ! 留学JAPAN」に限らず、ぜひ学外での学びに挑戦してほしいですね。

What's "トビタテ! 留学JAPAN"?

意欲と能力ある全ての日本の若者が、海外留学に自ら一步を踏み出す気運を醸成することを目的として、官民協働のもと社会総掛かりで2013年10月より取り組んでいる留学促進キャンペーン。2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会までに大学生の海外留学12万人(現状6万人)、高校生の海外留学6万人(現状3万人)への倍増を目指しています。



百瀬 年彦 准教授

新村 知子 教授

青山 真也さん
石川県立大学 博士前期課程
環境科学専攻 修士2年

青山さんが開発した土の熱伝導率センサー。このセンサーによって、これまで難しいとされてきた、土の熱伝導率の屋外計測が可能になった。



「留学」の機会を
たくさんの学生に!!
トビタテ! 県大生たち!

吉原 麻美さん(キャリアセンター)

青山くんには是非とも留学のチャンスを勝ち取って欲しいと、キャリアセンターとしてもできる限りバックアップを行いました。留学計画などの書類の添削や二次面接対策としてのプレゼン練習などを中心に、沢山の先生方の協力を得て何度も行いました。「合格」の知らせを聞いた時は自分のことのように嬉しかったです。出発までは事前研修や知事表敬、壮行会など忙しいスケジュールでしたが、連絡調整を行い無事に留学まで送り出すことができました。前例がない中で「本学初のトビタテ生」として、そして「石川県の地域人材コース一期生」として留学に臨んだ青山くん。これからも後輩のために留学で得た知識や経験を活かしてもらいたいと思います。

次世代シーケンサーを 活用してゲノム育種を 加速する

生産科学科
植物遺伝育種学
高木 宏樹 助教

私の研究室では、農業上有用な遺伝子を迅速に見つける技術の開発に取り組んでいます。新たに有用な遺伝子を同定することは、現代のゲノム情報を活用した育種において重要な課題です。しかし、従来の技術を用いた遺伝子同定は、多大な労力、時間および費用を必要としてきました。そこで、当研究室では、次世代シーケンサーとよばれるゲノム解読装置を活用して、迅速かつ低コストに新規有用遺伝子の同定技術の開発を試みています。

平成27年度まで、私は、岩手生物工学研究センターにおいて次世代シーケンサーの解析技術の開発に携わってきました。実際、その解析技術によりイネにおける耐塩性遺伝子の同定に成功しました。また、同定した耐塩性遺伝子を活用して「海人:Kaijin」という品種の育成にも成功しています(品種登録申請中)。このような研究が評価されナイスステップな研究者2015にも選ばれました。

現在は、アブラナ科野菜の育種に取り組んでいます。なかでも興味があるのは、*Brassica rapa*という植物種です。*Brassica rapa*には、かぶ、白菜、水菜およびチンゲン菜など様々な形態や性質を有する野菜が属しています。これらの野菜における形質の差異が、どのような遺伝子により制御されているのか、上記の解析技術を活用して同定したいと考えています。また、遺伝子同定後は、実際にその遺伝子を活用した育種にも挑戦します。

交配の結果得られた子孫を圃場で栽培している様子



カブの仲間を交配している様子

What's “ナイスステップな研究者”?

科学技術・学術政策研究所(文部科学省直轄の国立試験研究機関)では、2005年より、科学技術イノベーションの様々な分野で活躍し、日本に元気を与えてくれる者を「ナイスステップな研究者」として選定しており、これまで科学技術分野で世界的にも著名な研究者が数多く選ばれている。

※著名な研究者…山中 伸弥/京都大学iPS細胞研究所所長(2012年ノーベル生理学・医学賞受賞)、天野 浩/名古屋大学大学院教授(2014年ノーベル物理学賞受賞)等



能登島丸かじりフィールドワーク講座を行いました (9月20日~22日)

文部科学省大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築」の一環として、能登島丸かじりフィールドワーク講座を行いました。20名の学生が能登半島の中央部、七尾湾に浮かぶ能登島に滞在し、里海の生態調査、土壌環境調査、河川生態調査、気象・水環境調査といった環境調査手法の基礎を学びました。さらに、調査結果を分かりやすく取りまとめた発表する練習もを行い、プレゼンテーション能力の向上も目指しました。初日は台風16号の影響で大荒れの天気となり一部の予定を変更しましたが、二日目以降は天候も回復して無事に野外調査を行うことができました。学生達は自然の中で貴重な経験を行い、目を輝かせながら実習に取り組み、学生同士の議論も夜遅くまで続き、共同生活ならではの充実した3日間となりました。



採取した動物、海藻の同定作業



河川生態系の調査



調査結果の報告



実習を終えて晴れ晴れしい顔の学生たち

IPU Report



S×T TALK!

Students Teachers

Theme

イケてる微生物

Students

食品微生物学研究室の皆さん

Teachers

小柳 喬 准教授



太古の昔から途切れることなく今に続いている食品の「発酵」や「腐敗」は、私たちの暮らしに密接な関わりがあります。食品に含まれる微生物の働きとその応用について研究を進めている食品微生物学研究室のみなさんに、菌について熱く語っていただきました。

小柳/今日のテーマは「イケてる微生物」について。これまで研究を通して、微生物のどんなところがイケてると思った?先生は、こんなふうと思う。微生物はミクロの世界で生きている単細胞生物だけど、彼らには彼らの社会がある。せめぎ合い、まるで対話しているかのような。我々は、人間だけが何かを創造しているように思いがちだけど、実は微生物たちのミクロの世界でも同じようなことが起きている。生物みんなが素敵な力を持っているということを微生物は感じさせてくれる。

江口/私は酵母を育てていますが、思った通りに育ってくれと嬉しいですね。酵母が育ってくれている何時間かの間に愛着が湧いていきます。ずっと一緒にいて、可愛くなる(笑)。

小柳/だんだん臭ってくるけれどね(笑)。菌が生えないときは悲しくて呆然としちゃうよね。微生物は本当のことしか言わない。素直なんです。まさに県立大の学生みたい(笑)。自然現象って全て素直で、それらと向き合い、対話していくのは研究の醍醐味だね。じゃあ、うちの子(研究対象の菌)のここがイケてる!可愛い!と思うのはどんなところ?

江口/培養が終わった後に蓋を開けるとすごくいい匂いがするんです。お酒の香りみたいな♡

巻田/乳酸菌自体に臭いはないですが、培地は酸っぱい匂い。菌には愛着がありますね。

中村/大腸菌は・・・可愛くはないですよ・・・しかも、どうしてこんなに手をかけているのに、ちゃんと育てられないんだ、って・・・

小柳/この研究室は結構独特な匂いがして、臭いんだよね。でも、それは素朴な匂い(笑)。僕は、大学の時に授業で世界のいろいろなチーズを食べて衝撃を受けたんです。さまざまなカビの生えたチーズを初めて食べて、それで導かれたのか今、微生物の研究をしている。ちなみに学生の時に所属していた研究室が県立大の熊谷学長の研究室だったんだけどね。僕はもともと物理を勉強したかったはずなのに、なぜか微生物の研究をしている。菌に導かれてきたのかもしれない。みんなはどんな気持ちで研究室を決めたの?

中村/この研究室の研究テーマについて説明を聞いても最初はよくわからなくて。でも、小柳先生の授業を聞いていたら、楽しそうだなあと。先生の性格も含めて(笑)。

江口/最初は他の研究室で、何となく派手なのをやると思って、乳酸菌に超音波をあてる研究をしていました。

小柳/乳酸菌に超音波なんて派手だよな!

巻田/3年の初めごろには研究室を絞っていました。私はいしるサークルに入ってから、いしるを発酵させている乳酸菌に興味をもつようになってここにきました。

小柳/研究の魅力ってどんなこと?みんなにとって菌ってどんな存在?

巻田/資源研の山本先生がおっしゃっていたんです、「菌には無限の可能性があると。最初は本当にそうなのかな、と思っていたんですが、研究を深めていくうちにその言葉の意味がわかってきました。菌には、人を殺してしまうような菌もあれば、逆に人の身体に良い成分を出してくれる菌もあります。

中村/いしるの微生物叢を調べていた時、塩分濃度を変えたり温度を変えたり、外の環境を変えたりするだけで、微生物の種類や数、どれが優性になるとか、コロコロ変わったんです。菌単体は目に見えないほどの小さなものだけど、集まって他の菌と相互作用を与えながら目に見える大きな食品を腐らせたり、性質を変えたり、こんなに小さいヤツだけど、頑張っているんだなあと。同じ菌でも株が違うだけで性格が違ったりして、個性があって面白いです。

江口/日本酒の酵母を使った研究をしていて、ある日たまたま杜氏の見習いの方と知り合いました。そういうことも自分がこの研究をしていたからかなあと。

小柳/オカルトみたいな言い方もかもしれないけど、みんなイケてる微生物に“いざなわれて”この研究をしているんだよね。菌とは、そういうものなんです。



食品微生物学研究室の皆さん
左から 河田明輝さん・巻田春香さん・山脇美音さん・江口夏帆さん・小柳喬准教授・越野雅人さん・中村早希さん・鶴貝采映さん

1位は同率で2店舗!
人気のあった屋台ランキング!
 模擬店出店者が選んだ人気模擬店上位3店

1位 やきとりぴよ
 男子バレーボール部が出店した焼き鳥屋さん。毎年好評のやきとりぴよが今年はずいぶん模擬店大賞に選ばれました!



1位 ポップコーン
 ポップコーンを販売したい人たちが集って出店された店舗!ポップコーンの香ばしく、甘いにおいが会場を引き寄せられました。

3位 米ばる
 生産科学科の植物病理・保護学研究室からの出店。寒くて冷えた体に、ほかほかご飯と豚汁がとてもしみました!



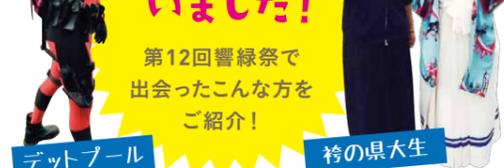
響緑祭実行委員が頑張ってる取材!

こんな人いました!
 第12回響緑祭で出会ったこんな方をご紹介します!

デッドプール **袴の県大生**

話題の映画デッドプール!!そのクオリティにたくさんの人が一緒に写真を撮っていました!ちなみに中は県大生です。

紅屋さんプロデュースのファッションショーに出演していただいた方の1人!袴外国の風景で建物の柄でした。

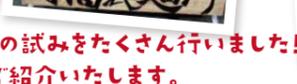
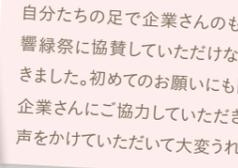


今年も大盛況!
第12回響緑祭
 2016.10.22~23

今年も大盛況!
 第12回響緑祭で私たち実行委員は初めての試みをたくさん行いました!その中でも特に頑張ったことをご紹介します。

協賛
 自分たちの足で企業さんのもとへ伺い、第12回響緑祭に協賛していただけないかお願いに行きました。初めてのお願いにも関わらず38件もの企業さんにご協力いただき、「頑張ってるね」と声をかけていただいて大変うれしかったです。

ゲストのブックング
 響緑祭初、アーティストさんによるLIVE。依頼から、出演までの機材や告知などの打ち合わせ等をすべて自分たちが直接行いました。常に相手からの連絡に対応できるようにずきと気を張っていたり、失敗や失礼がないよう様々なケースを考えて選択しないとけないなど、当日までとても緊張感のある毎日でした。ですが、直接交渉することで仲介企業をはさむより相手との信頼関係を築きながら当日のLIVEにお互い臨むことができました。



卒業生の活躍

演田彩野さん(食品科学科 2009年卒業)

昭和産業株式会社(東京都千代田区)で食品開発に携わっており、開発した商品「ふわっとろくいむらび黒蜜入り」が、大手コンビニエンスストアで全国販売されています。今回の商品は、既存品のリニューアルを考えて思いつき、求められる味や食感を出すために営業担当の方と思考錯誤して作りました。自分の開発した商品が、世に広まり、手にしてもらえのとはとても嬉しいです。在学中は、海外にでかけた、アジアフォーラムや金沢国際交流まつりで司会を務めたりと、興味があるものは色々挑戦しました。このような経験が、現在の業務にも繋がっていると考えています。在校生には、アウトプットが出来る人、つまり、自分で知識をつけるだけでなく、他の人に簡潔に伝えられる能力を身に付けて欲しいと思います。色々考えるだけでなく、まず行動できる人になって欲しいです。



CAMPUS LIFE

農学を通して、とっておきの青春時代を楽しもう。
 石川県立大学には、豊かな学生生活を叶える
 いろんなイベントがいっぱい!



本学から3名の学生が第5期トピタテ生に選ばれました

第5期トピタテ!JAPAN 日本代表プログラム(官民協働海外留学支援制度)に本学から3名の学生が選ばれ、平成28年度後期に留学することが決定しました。第4期にも2名の学生が選ばれ、本学としては連続の快挙です。今回選ばれたトピタテ生と彼らの留学計画は以下の通りです。

荒川裕亮くん (環境科学専攻 大学院2年) 希少生物ヤツメウナギの保全策と文化を学ぶ留学計画 ~ヤツメウナギがたく能登半島とワシントン州 (アメリカ 5ヶ月間)

高橋千亜紀さん (食品科学専攻 大学院1年) 石川県の食品産業を動かすエースになるための留学計画 (台湾 6ヶ月間)

長井貴広くん (環境科学専攻 4年) 世界の理科教育に利用するための雨雲判別装置の開発 ~石川の未来のグローバル人材育成への貢献~ (アメリカ 3ヶ月間)



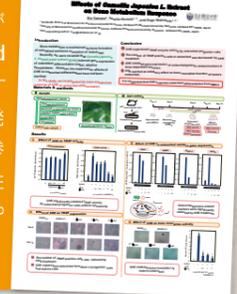
金沢で行われた壮行会

オリンピックセンター(東京)で行われた事前研修会

第29回日本動物細胞工学会2016国際大会でPoster Awardを受賞!

The 29th Annual and International Meeting of the Japanese Association for Animal Cell Technology (JAAC2016 Kobe)

食品科学専攻2年山瀬理恵さんがJAAC2016 KobeにおいてPoster Awardを受賞しました。ツバキ葉の骨代謝に関する研究成果を発表し、新規生理作用の発見が受賞のきっかけとなりました。海外参加者も多い国際学会で受賞することは注目される研究成果であり、今後は医薬品や食品素材としての応用が期待されます。



受賞したポスター

平成28年度 オープンキャンパスを開催しました

晴天に恵まれ、県内から204名、県外から169名、合計373名のみなさんにご参加いただきました。昨年に引き続き「シールラリー」を開催。研究室のポスター紹介や、生き物に触れたり、自分の舌で味わったりする体験型の企画を通して、本学の研究への理解を深めつつ、学生との交流も楽しんでいただけたようです。



2016.9.22
千枚田の稲刈り体験



輪島市の千枚田において1年生約60名が稲刈りを行いました。これは本学の授業「地域農業農村実習」の一環です。奥能登の農村は過疎によって衰退して、耕作放棄地も増えています。その現状を単に見聞するだけでなく、直接体験して問題意識を持つことが授業の目的です。千枚田は担い手がおらず、市役所・農業団体が維持管理しています。この日は「JAおおぞら」の指導を受けながら半日の稲刈り体験をしました。急勾配のあぜ道を登り下りして汗をかきつつ、学生は千枚田存続の方策を考えました。どんな名案が生まれるか楽しみです。

台湾との国際交流協定に基づくジョイントセミナーを能登で開催

金沢大学環日本海域環境研究センター臨海実験施設(能登町小木)において、「環境科学と生態的修復に関するジョイントセミナー in 能登2016」が開催されました。これは、2014年に締結された国立屏東科技大学と石川県立大学の連携協定を発展させたものです。日本からは金沢大学と本学の教員・ブラジル研修員・金沢大学の大学院生・本学の大学院生および学部生が参加し、台湾からは、国立屏東科技大学、国立台湾大学、国立宜蘭大学より、教員および大学院生の合計26名が参加しました。



金大臨海実験施設のある九十九湾を背景にセミナー参加者の集合写真



英語でポスター発表を行う県大生



能登半島に広く広がる赤色土を調査する参加者

Community Contact

本大学は、地域社会の発展に貢献しています。

ツキノワグマの被害を防ぐには

出没や人身事故で、何かと人騒がせなツキノワグマですが、一部地域を除いて、分布が拡大しています。石川県でも同様です。今年は能登島や珠洲、奥能登などでも目撃されました。森のあるところほどこでも、出遭う可能性があるという状態です。普段はおとなしいクマですが、見通しの悪い場所などで突然出遭うと、びっくりして襲ってくる場合があります。強い力と鋭い爪を持つ動物なので、たいへんな怪我になります。クマの被害を防ぐ原則は、山の中では出遭わないようにする。また、人里に引き寄せないようにすることです。出遭わないためには、見通しの悪いところで、大きな音や声を出して、クマに人の存在を早めに察知させるようにします。引き寄せないためには、クマが出没して欲しくない場所に、残飯や廃棄果実などクマを引き付ける餌になるようなものを置かないことです。



里山のツキノワグマ。大学の近くの山に設置したカメラで撮影。



石川県ではニホンジカも分布拡大中

2016.10.15~16 石川の農林漁業まつり

石川の農林漁業の振興と、農林漁業に対する県民の理解を深めることを目的に、毎年開催している「石川の農林漁業まつり」に出展し、終日賑わいました。(写真1)



写真1

「ヤーコンを使った食品開発:産学官の連携」-県立大、金工大、翠星高校の取り組み-ジャムやスイーツを販売。



写真2

地元伝統食品を応援する「いしるサークル」いしるを使った炊き込みご飯の試食は、大盛況!! 試食した来場者にアンケートをとり、認知度などを調査・分析しました。

ポケゼミ「ヒツジ」による羊毛フェルト生産
 白山市木滑の耕作放棄地を有効活用し、石川県産ラム肉の生産・流通を目指す県立大の学生と地元住民が、羊毛フェルトと地元特産品を販売。(写真2)

Club Activities 今回の表紙の顔はこの人たち+

能登・里海プロジェクト

イカリモンハンミウが息づく海岸で、学生と教員が地元住民と「生物観察会」など様々な活動を行っています。



活動歴:2年(2015年~) 部員数:学生25人、教員5人
 活動日:月1回開催
 主な活動内容:動物、植物の生態調査、砂浜の物理調査
 主な活動場所:羽咋市・楽垣海岸

